

卓話

平成 21 年 11 月 24 日

『GIFU・iPhone プロジェクトについて』

岐阜県商工労働部
総括管理監 中島守様

2009.11.24
岐阜県商工労働部情報産業課

1. ソフトピアジャパンを活用した産業振興

斬新な創出と情報発信力の強化
～S.Jエリアは「次なるステージへ」～

重点目標

- 産業高度化支援の促進
- IT拠点としての集約の向上

施策の方向

- 産業人材の育成
 - 多様な高いITスキルを持つ人材の育成
 - 県内中小企業のIT経験の促進
- 新技術・新サービスの創出支援と情報発信
 - IAMASと連携した先進的、モデル的な取り組みの推進
 - 産学官の交流の創出
 - 先端技術情報の発信による企業集積促進
- 創造性豊かな高度人材の育成と確保
 - 産業連携、地域貢献を推進
 - 情報発信力の強化
 - 地域社会が抱える課題の解決

GIFU・iPhoneプロジェクト

ステージ1

- IAMASにおいて世界に先駆けてアプリ開発の取組スタート
- 2008年4月 赤松教授を中心にiPhone勉強会スタート
- 2008年10月 ベンチャー企業2社がS.J退出

ステージ2

- 県内からアプリの大ヒット作品輩出
- 2008年10月 iPhone勉強会参加者が制作した「Finer Piano」発売
- 2009年9月 朝野・(株)「セカイカメラ」を国内発表

ステージ3

- 赤松教授を中心に全国に先駆けてiPhoneアプリ開発支援開始
- 2009年7月 開発・体験拠点オープン「DREAMCORE COLLECTIVE」
- 同年8月「iPhone塾」正式開講
- 9月「iPhoneフロア」設置
- 10月「モバイル・カフェ」開催



2009.11.24
岐阜県商工労働部情報産業課

2. スマートフォンとは

携帯電話、PHS と携帯情報端末を融合させた携帯端末

通話機能・カメラ・電子メール・Webブラウザ、GPS機能
+
アプリケーションの追加により機能拡張が可能

小型PCと同等の機能を気軽に持ち歩くことが可能!

iPhone (Apple)

Android (Google)

Windows Phone (Microsoft)

2009.11.24
岐阜県商工労働部情報産業課

4. GIFU・iPhoneプロジェクトの取組について

【プロジェクトコンセプト】
IAMASの技術シーズを活用したS.Jエリアの魅力・発信力向上による更なるにぎわいの創出

GIFU・iPhoneプロジェクト

iPhone塾の開催	モバイルカフェの運営	iPhoneフロアの整備	アプリ活用支援(産学連携)	他の事業との連携
<ul style="list-style-type: none"> 企業別のアプリ開発に特化した研修 高度研修開催 産出にてセミナー実施(全17) Touch the Macの研修を継続(10/7) Apple、Trendの開催(08/28等の自費) 	<ul style="list-style-type: none"> 業界連・業分界の交流および連携促進 毎週水曜・金曜 少額車・レンタル4社にて特別開催(10/22) 	<ul style="list-style-type: none"> ドリームコア入居希望者への優先措置 入居後の就業先9ヶ月分まで 産出・少額車・レンタル4社にて特別開催(10/22) 入居審査期間を大幅に短縮 	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の場としての県内各地域における協力体制構築 2009年10月15日～11/20 大垣大学立東中学校の総合学習支援(10/18) 各県町村との連携による観光・観光客等のデータ連携(エタラフ作成等) 	<ul style="list-style-type: none"> 他事業とのコラボレーションによるシナジー効果 中心市街地における新出産業の誘引 岐阜県立東中学校の総合学習支援(10/18) NPOP-TO-NETとの連携による他業種に活用できるアプリの開発

新たなIT技術・交流による新商品開発・経営改善のメッカとしての地位確立

スマートフォンアプリ開発のメッカとしての地位確立

ベンチャーを中心とした更なる企業の集積

地域での展開を通じ、地域振興の一助となる取組

産官学一体となった地方ならではの取組で産業全体を底上げ

2009.11.24
岐阜県商工労働部情報産業課

3. iPhoneアプリケーションの可能性

販売窓口は世界統一の「App Store」のみ
アプリ販売=世界が市場! ユーザーは世界約80カ国、5,000万人以上!

低コストの開発環境

- 開発環境 (iPhone SDK) が無償提供
- PC (Macintosh) があればアプリ開発可能

広がる利用場面

- アプリの追加で機能が拡張 (利用場面の拡大)
- 「モノづくり」の現場での活用も可能

販売・流通経路の開拓が不要 (中小企業、個人での参入が容易)

大都市、大企業の優位性が無い (地方における新産業としての可能性)

アプリ開発のための環境、設備を提供し、地元企業、個人のアプリ開発をバックアップ。先行して取り組むことでノウハウを蓄積し、他のスマートフォンアプリへの展開も視野に。

2009.11.24
岐阜県商工労働部情報産業課

5. DREAMCORE COLLECTIVE (iPhone塾)

「ふるさと雇用基金事業」(国費)を活用 + NPOドリームワークスの協力

アプリ開発者のための環境整備

機材
MacintoshPC 8台整備
iPhone 55台整備

人員
スタッフ 4名配置

＜アプリ開発基礎講座の様子＞

＜モバイル・カフェの様子＞

iPhoneアプリ開発の基礎講座を開催

水曜日 18:00～20:00 (全8回)

金曜日 18:00～20:00 (全8回)

※その他、Mac初心者講座、小中高生対象講座、写真加工デザイン講座等を随時開催

〇情報交換会「モバイル・カフェ」
毎週水曜日 19:00～21:00

〇開発環境の常時開放 (講座時以外)
平日 13:00～21:00